

【眞鍋協子先生】

審査を終えて

教室の生徒さんの熱演を、2日間に亘り聴かせていただきました。お一人ずつには個評に記しましたが、全体的に感じたことを述べてみます。

○テクニック・内容共に無理のない選曲をされていたことがよかったですと思いました。無理をして難しい曲を弾くことよりも、自分が理解できる曲を工夫してまとめ上げた演奏の方が人には伝わると思うからです、

○演奏は自分との対話です。自分の発する音と向き合い、言葉にできない思いを表現できるのがピアノです。毎日少しずつでいいので、自分のお部屋を整えるように、自分を磨く気持ちで音色やバランス、フレージングを磨いていきましょう。

○リズム…身体に余分に入った力を抜いて、曲の流れの中にリズムを見つけましょう。表現するためには加えるばかりではなくて、減らすことも必要です。たくさんの優れた演奏を聴くことは、自分の音楽作りのためにとっても大切なことです。

○日ごろの生活は、深いところで互いに結びついています。人を思いやったり、どんな気持ちでがんばっているかが演奏に生きてきます。ピアノを弾ける喜びを音にしていきたいですね。これからもたくさんピアノとお話して、一歩ずつ心と音楽を高めて行かれることを、心より応援しています。

【吉岡菜月先生】

コンクールでは、素敵な演奏をありがとうございました。

普段の積み重ねを熱心にされているからこそ、演奏に触れることが出来て、沢山の刺激を受けました。

全体的に、基礎力がしっかり備わっていると感じました。課題曲も選択曲もそつなく演奏される方が多くて、もっと他の曲も聴いてみたいと思わせる演奏がたくさんありました。そつのない演奏は、ある程度のレベルに達しているという事ですが、そこで満足せず、曲の中でどこまで自己表現ができるのか、という探究心はずっと持っていていただきたいです。そういう意味では、印象に残る演奏がもっとあってもいいなと思いました課題曲と、選択曲の出来に差がある方がいらっしゃいましたが、小さい頃から2曲を弾きこなせる事は、結果に関わらず、力がついている証拠です。このコンクールを、成長の踏み台の一つとして今後も活用して行って下さい。

先生方、ご家族の方の良きご指導があつての演奏です。でも、実際ステージに上がって演奏するのは自分自身です。それを成し遂げた事に自信を持って、これからも音楽ライフを楽しんで行って下さい。

【谷脇裕子先生】

まず初めに今回も、出場者の皆様、また指導された先生方が長い時間をかけて作り上げてこられた音楽を楽しませていただきありがとうございました。

何回も聴かせていただくこのコンクールですが、今回は一段と皆様のレベルが上がっていたように感じられました。

幼児コースの小さい方たちから一般の方まで、皆様本当に、自分の音楽を伝えようという意思が感じられる演奏ばかりでした。ただピアノの演奏で難しいのは、音楽を伝えるために大事なのは、やはり音の表情の変化だということです。小さいうちは、つい表現しようとして体の大きな動きやとりあえず大きな音を出すことに頼りがちですが、少しずつ多彩な音を引き出すテクニックや指の力を身につけていき、本当に必要な体の動き、大きいだけでなく豊かな響きで音楽を表現できるようになっていけるといいですね。一流のスポーツ選手のフォームが美しいように、無理な力の入らない姿勢や、力を伝えやすい鍵盤との距離感などにも気を配っていいと思います。

また、曲が難しくなっていく過程で陥りやすいのが、技術的に完璧に弾くことを最優先にしてしまうことだと思います。もちろん技術を磨くのはとても大事なことです。それは音楽をより素敵に表現するためです。技術的な練習をする時にも、どんな表情でどんな音楽を表現したいのかを考えながら、美しい旋律を弾いているのだという思いを持って練習してみてください。難しい部分の一つ一つをそうやって練習していくことで表現力が増していくと思います。

最後に、親子デュオも含めたデュオコースについてですが、好きな曲を選べたということもあったのですが、どの組もとても素敵に音楽をうたっていらっしゃるのに心打たれました。相手の音を聴いて、お互いに寄り添いながら音楽を作り上げていくことが、とても自然にできていました。アンサンブルをするのと同じ気持ちで自分の音をよく聴いて音楽を作っていくと、ソロの演奏技術も磨かれていくと思います。デュオの練習まですることは大変ですが、本当に楽しい音楽体験ができることで、積極的に楽しんでいただきたいと思います。

また皆様の演奏を聴かせていただく機会があることを楽しみにお待ちしております。